

令和6年度

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(肝炎等克服政策研究事業)

肝炎医療コーディネーターの育成と育成後の活動支援

多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成
及びその活動の質の向上等に関する研究(23HC2002) 成果より

医療法人ロコモディカル
ロコモディカル総合研究所
江口 有一郎

研究背景

肝炎医療コーディネーター（肝Co）等の人材の育成と活躍、育成後の活動支援が重要であることが令和4年改正 肝炎対策基本指針 第5（2）イに示されており、全国的にはさらに推進していく必要がある

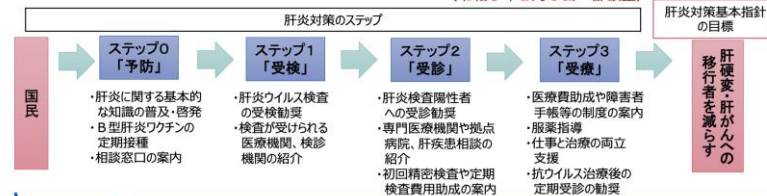
参考

令和4年改正 肝炎対策基本指針 第5（2）イ

地方公共団体は、国、拠点病院等と連携して、地域や職域において肝炎の普及啓発、受検勧奨や肝炎ウイルス検査後のフォローアップ等の支援を進める肝炎医療コーディネーター等の人材の育成と活躍の推進に取り組む。この際、肝炎医療コーディネーターの基本的な役割や活動内容等について、国が示す考え方を踏まえ、都道府県等においてこれらを明確にした上で育成を進めることが重要である。また、地方公共団体は、国、拠点病院等と連携して、肝炎医療コーディネーターの育成後もその活動状況の把握に努めるとともに、肝炎医療コーディネーター間の情報共有や連携がしやすい環境の整備に努めることが重要である。

肝炎医療コーディネーターについて

「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について」 健発0425第4号平成29年4月25日厚生労働省健康局長通知（令和5年2月3日一部改正）



肝炎医療コーディネーター

1人で全ての役割を担うのではなく、様々な領域のコーディネーターがそれぞれの強みを活かして患者をみんなでサポートし、肝炎医療が適切に促進される様に調整（コーディネート）する



1. 肝Coの育成の現状に対する研究班の取り組み

背景	肝Coの育成において地域や個人に差異がある
課題	肝Coの育成を行う際、以下の点において全国的な均てん化が必要である 1. 肝Co等の人材の養成と活躍の推進 2. 各地で基本的な役割や活動内容について明確にした上での育成
研究班の取り組み	1) 肝Coの育成において都道府県ごとに様々な点において異なっていることを明らかにした 2) 育成の方法について3パターンに分類した 3) 上記を踏まえ育成の際に最低限必要な知識や活動の事項をまとめた「スタディブック」の制作を進めている 4) 職種ごとの「活動ガイドブック」「全国の活動事例マニュアル」を制作し、活用の普及を進めた

2. 肝Coの育成後の活動支援に対する研究班の取り組み

背景	肝Coの育成後の活躍に地域や個人に差異がある
課題	肝Co育成後における活動支援として肝Co間の情報共有や連携しやすい環境の創出を進めなければならない
研究班の取り組み	1) 肝Co情報ポータルサイトを知識や活動についてのこれまでのツールやコンテンツを活用しやすい形にリニューアルし、運用を開始した 2) SNSによるリアルタイムな情報共有や活動評価のためのツールとしてLINEを用いたシステムを構築し、運用を開始した 3) 患者肝Coによる学生講義の成果集を制作し、患者Co活動ハンドブックの制作を進めている 4) 経験豊富な全国の肝Coが地域のニーズにあったスキルアップ研修等のサポートシステムを開始した

1. 肝Coの育成の現状に対する 研究班の取り組み

1-1) 班員の都道府県、周囲の都道府県合計 11 自治体における実態調査では、多彩な開催要領、プログラムであることが明らかとなった

項目	各自治体における現状
開催回数／年	年度に 1 回または 2 回
日程	半日、1日、2日。
職種等による区分	区分なしが多いが、一部の自治体は職種によって名称やカリキュラムを区分している
講義形式	①現地のみ、②現地＋オンラインのハイブリッド、③一定の期間でのオンデマンド、④オンデマンド＋現地
研修時間	1 時間半～8 時間と多岐にわたる
試験方法	①確認試験、②確認試験＋レポート、③確認試験＋アンケート、④アンケート、⑤なし また試験方法は、オンライン回答や現地。資料参考可・不可あり
講義項目	基礎医学、臨床医学、制度、コミュニケーション、事例、パネルディスカッション、患者講義など。項目は自治体で多彩。
認定期間・方法	あり（3～5 年、研修受講で延長）が増加傾向

1-1) 医学的テーマに関して講義内容や受講科目も多彩であることが判明した（例：佐賀県、A県、B県、C県）

C型肝炎の講義について	佐賀	A	B		C	
			医療	地域	総論	各論
1 肝臓の解剖		※（肝硬変）		○	○	
2 肝臓の機能					○	
3 肝障害の原因とメカニズム					○	
4 肝臓病の診断					○	
5 肝炎の種類				○		
6 C型肝炎の発見		○		○		
7 感染経路	○	○	○	○		○
8 潜伏期間			○			
9 感染リスクの高い行為、低い行為		○				
10 自覚症状				○		
11 検査を受ける場所				○		
12 ウイルスの型	○					
13 ウイルスの種類	○		○			
14 ウイルスの構造	○					○
15 ウイルスの遺伝子	○	○				○
16 キャリア率	○					
17 自然経過	○	○	○	○		○
18 慢性肝炎	○					
19 肝硬変	○					
20 C型由来の肝硬変	○					
21 C型由来の肝硬変（変遷）	○					
22 C型由来の肝がん（変遷）	○	○	○			○
23 線維化と肝がんの関連		○				
24 HCV抗体陽性の考え方（診断）	○	○	○	○		○
25 低力価・中力価・抗力価	○		○			○
26 病態の進行と血小板数						○
27 陽性者の対応	○			○		

1-2) 養成・スキルアップ内容の3タイプに分類できることが明らかになった

	基礎重視系 (講義)	臨床演習系 (グループワーク・事例検討)	創造発展系 (講義とグループワーク)
メリット	知識の取得と更新 WEB開催可能 幅広く参加可能	活動につながる 連携の強化 多方向での意見交換	活動につながる 連携ができる 知識の取得と更新 多方向での意見交換
デメリット	活動につながりにくい 一方向の情報発信	知識のアップデートができない 参加者の負担（移動等） 参加人数の制限	参加者の負担（移動等） 参加人数の制限 主催側の負担大
開催時間	短（ただし、オンデマンドは長い傾向）	長い	長い
開催負担・ 難易度	易	難	超難
習得状況の 把握	難	易	易

1-3) 地域性を鑑みて標準化については必須項目と選択項目をランク分けした明示した問題集形式のテキストを制作している



令和7年度上期に完成予定

肝Coの育成において必要事項を示し、医学的知識や各種制度を紹介、肝Coの活動としての要点を明確に提示した形式として制作を進めている

例)

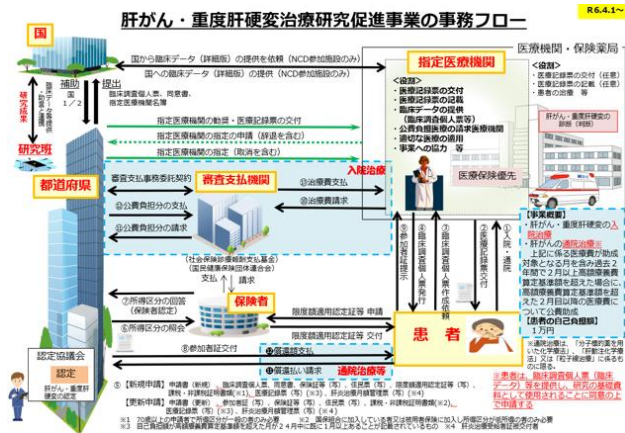
医療制度 受療3-1

肝がんや重度肝硬変についての医療費の助成制度に正しいものに○、間違っているものに×をつけてください。

- a) B型・C型肝炎ウイルスが原因の「肝がん」や「重度肝硬変」の治療を受けている場合が対象である。
- b) 肝がん・重度肝硬変の入院治療又は肝がんの通院治療（分子標的薬を用いた化学療法等）を受けている場合が対象となる。
- c) 高額療養費算定基準額を超えた月が助成月を含め過去2年間で2月以上で対象となる。
- d) 2月目以降（助成が行われる月）については、都道府県が指定する指定医療機関で治療を受けている必要がある。
- e) 同制度を説明するための資料はない。

解説

- AAAAAAAAAAAAAAAAAA
- BBBBBBBBBBBBBBBBBB
- CCCCCCCCCCCCCCCC
- DDDDDDDDDDDDDDD



よくあるご質問

- Q** どのような制度が載せてください。肝がんの治療中であれば受けられるのですか？
B型・C型肝炎ウイルスを原因とする肝がん、(重度)肝硬変と診断されている方で、年収約370万円以下であることなど、一定の条件を満たしている場合に助成を受けられる制度です。
- Q** 条件を満たした場合の助成内容について、自己負担はいくらになるのか、高額療養費制度と同時に使えるのか教えてください。
高額療養費の基準額を超えた月の自己負担額が1万円となります。1月あたり、最大で47,600円の助成が受けられます。高額療養費制度も同時に使うことができます。
- Q** 医療記録票、臨床調査個人票及び同意書の記入方法を教えてください。
同意書を除き、臨床調査個人票は指定医療機関、医療記録票は指定医療機関、薬局で記入してもらいましょう。指定医療機関以外で対象となる医療を受けた場合は、ご自身で医療記録票を記入いただくことになります。
- Q** 年収約370万円以下というのはどのように確認すれば良いのでしょうか？
年収約370万円以下の条件を満たすかどうかの確認は、ご自身の高額療養費の限度額適用認定証の所得区分(通区分)をご確認ください。70歳未満の方であれば「区分E」が「区分A」の方、70歳以上の方であれば「I」か「II」の方(70歳以上の方で、所得区分が「I一般」の方は保険証(高額受給者証)で確認ができ、一部負担金の割合が「I割」か「II割」の方が対象になります。
- Q** 助成を受けるためには、どこに何を申請すれば良いのでしょうか？申請書類や申請方法について教えてください。
助成を受けるためには、都道府県に「参加確認」を交付してもらうための申請が必要となりますので、必要書類をご用意いただき、都道府県に申請をお願いします。申請窓口は都道府県のHP等でご確認ください。年齢の区分等に申請に必要な書類が異なりますのでご注意ください。
都道府県(場合によっては医療機関)から、医療記録票、臨床調査個人票及び同意書を受け取り、指定医療機関や薬局で記入してもらいましょう。
- Q** この制度は、現在、自分が通っている医療機関以外でも利用することができますか？
この制度の指定医療機関であれば医療機関が変わっても利用できます。対象の医療機関については、肝炎医療についてまとめている情報サイト「肝ナビ(肝炎医療ナビゲーションシステム)」が各都道府県のHP等でご確認ください。また、薬局については治療薬の取扱い(一般)が対象の薬局でもご利用いただけます。



肝炎医療コーディネーターの皆さんへのポイント！

- ✓ 医師が制度を詳しく知らないこともあり、医療事務や患者さんCoさんの強みを活かせるところ
- ✓ 制度は見「ポイント」情報のアップデートは
- ✓ ささまざまな資料があるので、詳細は覚えなくてもOK。資料があることを覚えておきましょう！



参考資料) 厚生労働省HP
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kanen/kangan/index.html



解答 e)
 必須レベル A

参考資料2) 日本肝臓学会
https://www.jsh.or.jp/medical/guidelines/jsh_guidelines/hepatitis_c.html

1-4) 肝炎Coの活動の全国均てん化を進めるために職種別マニュアル（ことはじめ編）を制作し、全国展開を開始した

全17職種、67ページ、PDFと電子ブック



職種

- すべての方へ
- 栄養士
- 病院薬剤師
- 薬局薬剤師
- 臨床検査技師
- ソーシャルワーカー
- 診療放射線技師
- 理学療法士
- 事務職
- 健診機関
- 肝炎患者さん
- 行政担当者
- 相談員
- 看護師
- 保健師
- 介護士
- MR

全国の自治体や拠点病院に案内を行い、後述のポータルサイト「肝Coと仲間たち」からPDFダウンロードを可能にしている

職種別活動ガイド

肝Coの活動は、自分の職種の専門性や立場を強みととらえた活動を行い、他の職種と連携することが肝Co活動の大きなポイントです。

それぞれの職種毎の肝Coの活動について纏めました。

自分の職種はもちろん、他の職種の強みを知ること、肝Co同士の連携に役立ちます。是非ご活用ください！

活動ガイドブック

初心者や活動に悩んでいる肝Coの方におすすめ！先輩Coの知恵が満載です！

活動の第一歩や振り返りにご利用ください。

肝PE（肝ニングペーパー）

予防からフォローアップまで職種毎の強みを活かした活動集！



最初の2ページは各職種の本来業務における強みやフィールドを記載し、その職種との連携のタイミングや基本的な活動事例を紹介。またこれまで全国調査で明らかとなった活動を難易度ごとに提示している（例：臨床検査技師1p、2p）

検査技師

検査のことならおまかせ 「臨床検査技師」

患者さんと直接、接する機会が少ないですが、裏方としてお役に立てるように活動しています。

こんな時は
頼って下さい!!



- ? 検査結果について聞きたい
- ? 院内での肝炎ウイルス検査の陽性率は?
- ? 肝炎の検査は受けられますか?

<連携のタイミング>

採血～検査結果の拾い上げなど検査の事なら何でもご相談ください

臨床検査技師ってこんなお仕事です! /

- 1 検体検査…血液や尿など人から採取した検体を検査します。
- 2 生理学的検査…超音波検査、聴力検査、呼吸機能検査、心電図、脳波検査等を行います。
- 3 検体採取…採血なども行います。
- 4 啓発活動・肝臓病教室での検査の説明…市民公開講座や啓発イベントで検査結果の見方などを伝えます。
- 5 検査結果の拾い上げ…検査結果から、知りたいデータを抽出します。

臨床検査技師の活躍フィールド

病院の検査室、健診機関以外にも、術中モニタリング、病理部での組織診や細胞診、内視鏡室でも活躍しています!

臨床検査技師の肝Co 活動事例



はじめの 第一歩! 検査待合室にポスターやチラシ、フラッグを設置

採血の待ち時間は患者さんにとって落ち着かない時間となります。その時間を活用して気を紛らわすようなポスターやパンフレット、学会で発表したポスターを掲示することで啓発につなげています。簡単な体操などのポスターを貼ると、それを見ながら体を動かす患者さんもいらっしゃいます! 患者さんからは話しくいので、ポスターを見ている人に積極的に声をかけましょう。

こんにちは!
いまポスター
ご覧になって
いましたよね!

無料検査って
どこで?



患者さんと直接会うことが少ない職種ですが、影の立役者として活動できます!

ホップ★

検査結果から肝炎ウイルス陽性者を拾い上げる

検査結果が集まる検査部では肝炎ウイルス陽性者を把握できます。まずは自分の病院にどれくらい陽性者がいるか確認してみることから始めてみては?

採血時の止血時間に肝炎の話を持ちかける

採血の止血時間は黙っているより、肝炎ウイルス検査の案内をして、家族の方にもお勧めしてくださいね! と声をかけてみましょう。

ステップ★★

FIB-4 Indexの計算結果を検査結果に反映させる

FIB-4 IndexはAST、ALT、血小板の結果と年齢が分かれば算出可能です。計算システムだけ構築すればよいので、思っているより導入のハードルは低いかもしれません。

拠点病院等からの案内があれば、院外の啓発活動にも参加してみる

イベントに参加することで、啓発に直接関わられるだけでなく多くの肝Coと出会うきっかけになります。ぜひ仲間づくりに参加してみてくださいはどうか?

ジャンプ★★★

検査結果を活かすためには他職種の肝Coと連携する

検査結果を抽出後、陽性だけでなく陰性であってもその結果を患者さんに還元することは重要です。還元するには、患者さんと接することの少ない検査技師だけでは難しいです。だからこそ、他職種と役割を分担する体制を整えることが重要になります。

無料肝炎ウイルス検査を行う体制づくり

無料検査を自施設に導入するためには、コスト面や医療安全面から病院管理者の理解を得ることで体制が整った施設もあります。

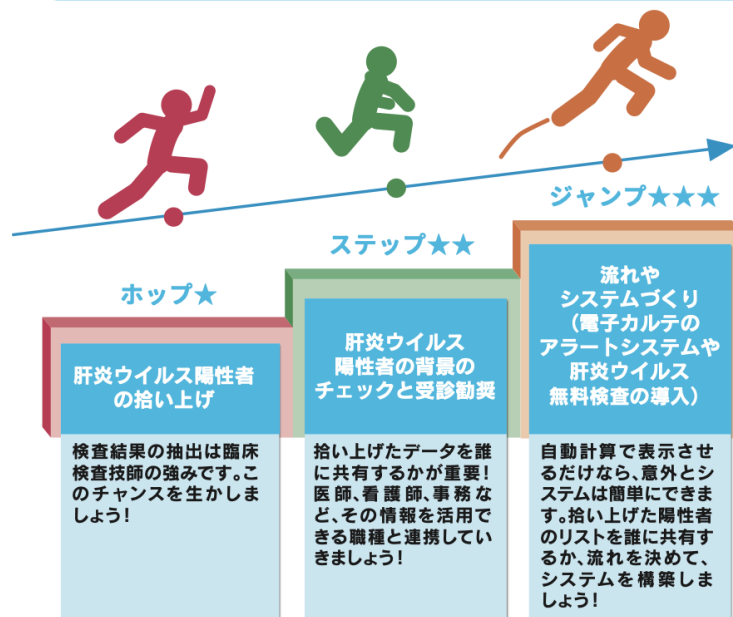
後半は各職種の本来業務と肝Coの活動の関連性を紹介し、まず最初に活動を開始する時の要領や連携すべき関連する職種を明示した構成としている（例：臨床検査技師3p、4p）

検査データは命を守る結果！
是非肝Co活動に活かしましょう！

拾い上げがうまくいっている病院は検査技師の活躍が肝！

検査結果をいち早く知り、そのデータを保管しているからこそ、肝炎ウイルス陽性者を拾い上げることができます。拾い上げから多職種と連携することで、活動は広がります。検査を外注している病院でも、検査結果を確認して、拾い上げはできますよ。

検査を最初に見る職種の強みを生かす



患者さんの知りたい事は、検査結果の見方！！

患者さんにアンケートを取ると、治療のことに続き、検査結果の見方は関心の高い項目です。臨床検査技師だからこそ、検査の結果を伝えることも大事な役割です。肝臓病教室などをきっかけに検査結果の見方について患者さんに伝えてみてはいかがでしょうか？



先輩肝Co臨床検査技師からのアドバイス

✓ 活動のコツは上司の理解と仲間づくり

まずは検査技師長へのアプローチからはじめましょう！
上司の理解を得ることで活動しやすくなります。肝臓専門医に相談するのも近道のひとつ。他職種の肝Coがいたら、まず声をかけてみましょう！

無料検査を導入するメリットは病院にも！
病院にどれだけ貢献できるのかで、病院側の理解も得やすくなります。

✓ 患者さんとかかわる機会が少ないからこそ、多職種の仲間を作ろう！

患者さんと密接にかかわる機会が少ないからこそ、多職種の仲間を作り、連携することで、情報も活用でき、肝Co活動も広がります。

<仲間を作るきっかけ>
職種にこだわらず、仲の良い人に声をかける／イベント参加

✓ 健診現場では、事務、看護師、保健師等と連携して、陽性者を精密検査につなげましょう！

精密検査の結果通知文だけでは陽性者を受診につなげられないこともあります。だからこそ、健診の場にいる時のアプローチが重要です。
陽性者の方の自宅近くの肝臓専門医がいる病院を紹介したり、予約をとるなど確実に受診につなげることもできます。
その際は、事前に地域の肝臓専門医がいる病院との連携も大事ですね。

あなたの行動がきっかけで、患者さんの命を守れるかもしれません。
そう思えば、今すぐにも動き出したいと思いませんか？



1-4) 活動事例マニュアル（基礎から応用編）としてこれまで全国調査で集められた活動事例を紹介し、その職種の専門性を活かした活動の提案を明示する構成として制作し、全国自治体、拠点病院へ案内を行った

肝ペ（肝ニングペーパー） 全14職種、56ページ

例) 管理栄養士

肝Coこんな活動も 栄養士さん

● は、患者さんごとの家族へ向けたいこと
(対象が患者さんごとの家族)

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加を促す。(全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。)
- 肝炎患相談窓口(肝炎患診療連携拠点病院・肝炎患専門医療機関)の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことでも、肝Co仲間にご相談する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを理解する。
- 栄養指導のリーフレットを渡す。
- 運動療法について説明する。
- 肝炎ウイルス検査の結果・予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。(肝Coの育成)
- 院内(または院外)で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学ぶ機会を案内する。

共通の活動

- 肝炎啓発のポスターを掲示する。(たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。)
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどのイベントに参加する。地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎についての啓発を行う。・声かけ、資料配布(デッサンやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など)
- 上司に肝Co活動(自分がどんな活動をしているのか等)について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを育成、参加する。仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表(活動報告、研究発表など)をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を備用して参加する。
- 肝炎診療連携拠点病院と各医療機関・行政で連携し啓発活動を行う。
- 市町村、地下鉄、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置依頼を行う。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。(定期的な勉強会、研修会への参加)

栄養士さん だからこそ

- 食事に「7月28日は世界肝炎デー」等と印字する。
- 栄養支援を受ける全診療科の患者さんやご家族に肝疾患に関する情報提供をする。
- 肝炎啓発チラシ(ポスター)や啓発資料を栄養支援室や待合室に設置する。
- 地域の講演会などで肝炎やSLDについて啓発する。
- レシピ集やリーフレットを作成する。
- 医師とともに市民講座などを開催してSLDについて啓発する。
- 院内の肝臓病教室で栄養、食事療法について説明する。
- 肝臓の病気について、アルコールのことや飲酒以外の原因についても周知していく。
- 健診二次検査で来院する患者さんに予防を含め肝炎の成因の説明をする。
- 新聞記事やTVを介した啓発活動に栄養士として参加する。
- 肝疾患専門管理栄養士の資格を取得する。
- サルコペニア予防についての啓発のため、簡単にできる指輪かテスト方法などを市民公開講座などで説明する。
- 肝臓と飲酒の関係について啓発を行う。

受検

肝炎ウイルス検査の
受検勧奨を行う

共通の活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧奨する。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続の方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院内での啓発イベントで無料検査機種の周知をする。
- 検査を受けた患者さんに検査結果を伝える。または、通知カード、シールなどを渡す。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検勧奨を行う。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を促す。
- サルコペニア判定を行う。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 事前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんにFib-4インデックスの検査値を伝える。
- 受検勧奨資料の見直しを行う。

栄養士さん だからこそ



- 栄養支援時に肝機能が悪い患者さんには検査歴を確認し、肝炎ウイルス検査が未受検ならば検査を勧める。
- 肝硬変・肝がんの栄養指導した患者さんの家族が、肝炎ウイルス検査を受けたことがあるかどうか確認し、検査歴がなければ無料肝炎ウイルス検査している医療機関などを案内する。
- 糖尿病や高度肥満症の方の腹部超音波検査歴を確認し、未実施の場合腹部超音波検査を勧める。
- ご家族も一緒に家族支援講座などの集団支援を行う。
- 他科で術前検査の結果を説明されたか確認する。
- 栄養支援室に肝炎ウイルス検査のポスターや啓発グッズを置く。
- SLDの患者さんとそのご家族への栄養支援を医師に依頼する。
- 院内で様々な職種の肝Coに聞かれるように肝炎ウイルス検査受診の際の、受検→受診→受療までの流れをどの部署でも確認できるようにフローチャートを作成する。
- スムーズに受検できるように検査オーダーなどセットで作成する。

受診

肝炎ウイルス検査
陽性者を肝臓専門医での
精密検査に勧める

共通の活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 最新の治療法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的ハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にIFNなどの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- IFN後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA治療は副作用が少ないことを伝える。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍とされているため栄養支援や、糖尿病療養指導など腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib-4 index 測定し、肝臓専門医との関係とハイリスクであることを説明する。
- 初期の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- HCV抗体はHBe抗原とは異なり中和抗体ではないので、ウイルス肝炎の持続感染が否定できないため肝臓専門医療機関を勧める。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんがいたら、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの掘り上げを行う。

栄養士さん だからこそ

- 肝臓専門医を受診していないSLD患者さんにSLDをふまえた栄養支援をする。(糖尿病や心疾患などの栄養支援と併せて)
- 他科から依頼のあった栄養支援でALT高値やウイルス性肝炎未治療の患者さんに肝臓専門医への受診を勧める、又は担当医に提案する。
- アミノ酸製剤の服用方法を支援する。(アミノレバニチンやリパークト服用のポイント、LES献立例、LESの必要性を説明する。)
- 栄養支援時、患者さんの気持ちを傾聴する。

受療

肝炎の治療を
勧める

共通の活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんにウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 大腸、外痔患者さんに、治療完了までの継続の重要性を説明、サポートを行う。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない薬のみでできること、C型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。
- インターフェロンを行った患者さんのDAA治療に対する不安について傾聴する。
- B型肝炎の患者さんに対しデロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B型肝炎の再活性化のチェックを行う。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)

栄養士さん だからこそ



- 毎回の栄養支援でInBody測定を行い、比較して意欲を高める。
- 患者さんと医療従事者と一緒に肝臓病理解教室を行う。
- 薬の副作用による食事の対応の説明をする。
- 入院で来院・外来患者さんにご用紙等を使用し栄養支援を行う。
- SLD患者さんに診察日に合わせて栄養支援を受けてもらい改善点の提案をする。
- 外食の多いSLD患者さんが無理なくバランスのいい食事ができるような「食事の組み合わせ例」の「レシメット(ex.コンビニ食や惣菜の)を作成し説明する。
- 無料宅配食試食券を渡して、食事量、内容を体験してもらおう。冷凍食品(有料)も案内する。
- 薬や療養などについての相談があった場合に、他職種との連携をとる。
- SLDの患者さんの生活支援のため、理学療法士と連携し、運動と栄養の関連について説明する。
- SLDやサルコペニアの患者さんの運動について、理学療法士と連携する。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(たとえば、SVR後の発がんリスクや実際の数値を示す。)
- 定期検査に受診していない患者さんへ週に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- 他科の患者さんで受診されていない患者さんへ週に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんへの対応、支援を行う。
- 肝疾患の患者さんには定期検査が必要であることを説明する。(対象者)
- 市民公開講座などの開催をする。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 肝炎ウイルス治療後の定期検査、受診の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

栄養士さん だからこそ

- SLDの患者さんの外来栄養支援では、体重記録・食事記録・患者のEIBDの書き込み「体重コントロールファイル」を渡し、次回の栄養支援時にそれをもとに患者さんと一緒に振り返りを行う。
- 栄養支援を継続して、患者さんの変化に対応していく。
- 受診時のInBody測定を医師より依頼してもらおう。

後述のポータルサイト「肝Coと仲間たち」からPDFダウンロード可能

研究班で制作したコンテンツの活用事例

- 研究班で制作した「肝炎医療コーディネーター活動ハンドブック」（ことはじめ編）を自治体が主催の肝Co養成研修会で全員に配布し、各職種におけるさまざまな活動について紹介、受講者のが職種に応じて取り組めることについて具体的に想起する資料として活用されている。
- 「活動事例マニュアル（基礎から応用編）」は肝Coスキルアップ研修会の職種ごとのグループワークでの教材や医療機関における肝Coチームの活動の方向性を議論する際の基礎資料として活用されている。

令和6年度 奈良県肝炎医療コーディネーター養成研修会の開催について

本県では、肝炎患者等が適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関、行政機関その他の地域や職種の関係者間の橋渡しを行っていただく「奈良県肝炎医療コーディネーター」の養成を行っています。

日時 令和6年7月30日(火) 14:00~17:00 (受付 13:30~)

場所 奈良県医師会館(橿原市内膳町5-5-8)
2階会議室

受講料無料

対象 市町村、保健所の担当者、医療機関関係者、患者等
肝炎対策の推進に意欲のある方ならどなたでもご参加いただけます。

※これまでにコーディネーターの認定を受けていない方が対象です

定員 50名(先着順)

プログラム

奈良県の肝炎対策について	奈良県疾病対策課 感染症係 主任主事 坂野 瑞希
肝疾患の診療と診断	奈良県肝疾患相談センター 専従医師 浪崎 正
当センターにおける肝炎医療コーディネーター支援の取り組みについて	奈良県肝疾患相談センター 相談員 奥野 聖子
肝炎医療コーディネーターになるみなさんへ 一患者から伝えたいこと	東京肝臓友の会・事務局長 米澤 敦子
	全国B型肝炎訴訟大阪原告団・役員 奈良肝臓友の会・事務局長 中村 彰宏
肝炎医療コーディネーターの役割 ～佐賀県における取り組み～	奈良県立医科大学 客員教授 奈良県立医科大学 奈良県肝疾患相談センター参与 江口 有一郎

確認テスト

申込方法:お申し込みフォームからお申し込みください。

(下記QRコードもしくはURLよりフォームへアクセスをお願いします)



お申し込みフォームURL:

<https://nsa.pref.nara.jp/gap/applicationRegister?app=AM000000206&entry=1>

申込受付期間 令和6年7月8日(月)~7月23日(火)

主催:奈良県疾病対策課、奈良県肝疾患相談センター



奈良県肝炎医療コーディネーター養成研修会の
プログラム

1. 肝Coの育成の現状に対する研究班の 取り組みのまとめと今後の方針

背景	肝Coの育成において地域や個人に差異がある
課題	肝Coの育成を行う際、以下の点において全国的な均てん化が必要である 1. 肝Co等の人材の養成と活躍の推進 2. 各地で基本的な役割や活動内容について明確にした上での育成
研究班の 取り組み	1) 肝Coの育成において都道府県ごとに様々な点において異なっていることを明らかにした 2) 育成の方法について3パターンに分類した 3) 上記を踏まえ育成の際に最低限必要な知識や活動の事項をまとめた「スタディブック」の制作を進めている 4) 職種ごとの「活動ガイドブック」「全国の活動事例マニュアル」を制作し、活用の普及を進めた

- 「スタディブック」を完成させて、これまでの成果物と併せて広く全国展開を行うことにより、肝Coの必要最小限の医学的な知識や各医療制度の理解を進め、また予防・受検・受診・受療・フォローアップや患者や多職種間のコミュニケーション等のスキル向上や肝疾患に対する偏見や差別への理解を深め、肝Coとしての活動の質の向上を図る
- 非ウイルス性肝疾患の増加や患者の高齢化など変化する肝疾患に対応できる肝Coの育成に対して継続的な情報提供や支援を行っていく

2. 肝Coの育成後の活動支援に対する 研究班の取り組み

2-1) 標準化をめざして肝Co情報ポータルサイトを知識や活動についてのこれまでのツールやコンテンツを活用しやすい形にリニューアルし、令和6年11月1日から運用を開始した

<https://kan-co.net>

肝Co向けには

- 肝疾患の医学的情報
- 活動支援のための情報サイト
- これまでの活動支援資材・ツール
- 特徴ある取り組み紹介
- 提言、成果物
- 活動事例集、動画
(まとめやインタビュー等)
- 関係の政策研究班へのリンク

一般向けへのサイトも構築した



2024年11月一般公開し、
2025年2月12日までに
総ページビュー数 55,458回
アクティブユーザ 19530人

2-2) SNSを用いた肝炎医療Co活動支援を立ち上げ情報共有や連携の推進のために活用している（13都道府県、2455名参加）



肝炎医療コーディネーター活動応援団



- 1) 情報発信 . . . 県からの制度や講演会の案内等の情報発信
- 2) 活動支援 . . . 情報コンテンツ
(患者さんへの説明資材の供覧と肝Co自己研鑽用の情報発信)
- 3) 活動報告 . . . 肝Coの活動報告（肝Coれぽ投稿フォーム）
- 4) 活動評価 . . . 活動アンケート調査、研修会参加状況の把握

現在までの状況

友達登録数 2455人

有効友達数 2224人（ブロック231人（9.4%）） ※LINE公式アカウントの平均ブロック率は20%~30%程度

送信回数 250,737 回（2020年10月~2024年12月）

登録都道府県 北海道・新潟・埼玉・千葉・茨城・兵庫・奈良・山口・佐賀
・熊本+研究班+一般
(※熊本・佐賀は自走化し、それぞれの県で管理)

独自LINE 山梨・沖縄・徳島（本年より開始）

情報共有や連携の推進を目的として運用しているLINEの画面は、上段の情報発信欄と下方の各種情報発信欄（リッチメニュー）で構成される。情報は厚生労働省や肝炎情報センター、日本肝臓学会等の情報源へ誘導している



各種の情報提供、活動報告、研修会や講演会、啓発イベントの告知としての活用し、活動の実態調査もアンケート形式で行うことが可能である

研究班から全国配信

兵庫県から全国配信

熊本県から全国配信

研究班から全国へアンケート実施

熊本県から熊本県肝Coにアンケート調査を実施

【📰news📰】

肝炎すごろく📄プレイレボ📄が掲載されました👏

コーディネーターの皆さんにご協力いただき、お使い戴いている肝炎すごろくの記事が掲載されました👏
大変分かりやすいプレイレボです。是非ご一読ください。

👉プレイレボはこちらから
<https://www.4gamer.net/games/999/G999905/20231013027/>

肝炎すごろくの作成過程と、そこに込めた思いについてのインタビュー記事も併せてご一読ください
インタビュー記事はこちら👉
<https://www.4gamer.net/games/999/G999905/20231017050/>

現在、肝炎すごろく改訂版と低学年向けすごろく、肝ぞうライフを用意しています。
ご希望の方は肝炎情報センター迄お問い合わせください。

お問合せ先📧
<https://kohnodai.xsrv.jp/contact/contact.html>

肝炎情報センター 考藤達哉

みなさんこんにちは!! 😊

兵庫医科大学病院 肝疾患診療連携拠点病院 事務局です。

本日は2つの講演会のご案内です。👉

①
2024年度 市民公開講座「たじま健康フェス」のお知らせです。

日時：2025年2月1日(土)10:00~12:30
場所：じばさんTAJIMA 2階「第1交流センター」(豊岡市大磯町1-79)
形式：現地開催(参加費無料)

お申込み方法は
①当日現地申込
②事前web申込(<https://forms.office.com/r/QnAXNf6QFd>)です。

寒い日が続きますが、ぜひお誘いあわせの上、ご参加いただければ幸いです。
皆様のご参加をお待ちしております🍀
詳細は別添案内状をご参照ください📄

【啓発イベントのご報告】

熊本県では、7/14(日)に熊本市内商業施設ゆめタウンはませんで肝疾患普及啓発イベント「あなたの肝臓、大丈夫？」を開催しました👏
当日は肝炎ウイルス検査：70名、血管年齢測定：89名、ミニ肝臓病教室ではくまモン隊に参加いただき、たくさんの方に肝臓の病気について知ってもらう機会となりました👏
ご協力いただいた熊本県肝Coの方々、誠にありがとうございました😊

また、7/28(日)は市民公開講座で、
①脂肪肝について②ウイルス性肝炎、肝がんについての講演③相談コーナー④肝炎ウイルス検査を実施予定です。
広報等のご協力を引き続きよろしくお願いいたします🍀



こんにちは!
肝Co活動をシェアする「肝Coれぼ」
2月分のご投稿を公開しました↓
<https://sagankan.med.saga-u.ac.jp/information/837.html>

早速、My肝ちゃんと活動している写真をお寄せいただきました!
患者さんにも好評だったようですよ~
□□



アンケートにお答えいただいた皆さんには、順次肝ちゃんをお送りしていますので、お楽しみに□
届きましたら、ぜひ写真を撮ってくださいね□
写真の投稿はトーク画面下のメニューよりお願いします!

【アンケートのお願い🍀】
熊本県肝疾患コーディネーターの皆様、いつも肝Co活動にご支援ご協力いただきありがとうございます。

9月後半から10月前半に行いました「コロナ前後の活動アンケート」とはまた別に、「肝炎医療コーディネーターとしての活動に関する現状を把握する」ためのアンケートを行いたいと思います。

設問は12問、所要時間は5-6分程度のアンケートです😊
今後における肝Coの活動をより活性化させていく対策を検討するために、ぜひご協力よろしくお願いします🍀👏

【URL】
<https://tinyurl.com/y1f7rgfs>

【回答期限】
2023年11月15日(水) 23:59まで

本調査の有効性や調査結果は論文化された
(「肝臓」64(11)2023)



SNSを用いた情報共有の仕組みは災害時などの緊急連絡網としても活用され有意義であることが確認された

【緊急のご連絡とご協力依頼】

新年のご挨拶とともに、皆様にご協力のお願いです。

本日石川県能登地方を震源とする地震が発生し多くの被害が出ております。対象エリアの方におかれましてはまずは身の安全の確保をお願いします。

全国の肝Coの皆様への身の安全、お勤め、関連施設の被害の共有依頼と全国肝Coで情報提供や支援できることがあれば共有しあいましょう。

ご協力お願い申し上げます。

江口有一郎

【情報提供】

災害栄養士（JDA-DAT）訓練を受けた栄養士さんからの情報提供です。

現在、フェーズ0（震災発生から24時間以内）ですので、まずは脱水予防・エネルギー摂取が最優先となります。肝疾患の方々の栄養管理としては好ましくない状態かもしれません。JDA-DATでは要配慮者を早めに発見・把握し、支援することを重視していますので、悪化を予防するためにも、患者様は言いくいかもかもしれませんが、現場スタッフへの申告をお願いしたいです。避難所にいらっしゃる医療スタッフ等に申し出ていただければ、現場の状況にもよりますが、個別対応可能だと思われる。

【災害時の自らできる栄養管理の工夫や注意点などが書かれているサイト】
<https://www.dietitian.or.jp/news/jdadat/2022/31.html>
 上記URLの「5参考(3)啓発資料」が一般の方にも比較的理解しやすく記載されていると思います。
 こちらのリーフレットの他言語版は下記URLにございます。
https://www.nibiohn.go.jp/eiken/disasternutrition/info_saigai_global.html

【拡散をお願いします！】

能登半島地震で被災して拡散アナログ製剤、免疫抑制剤など無くなってしまった患者のために、石川県の拠点病院が肝炎患者に向けてお知らせです。

処方箋や受給者証がなくても近くの薬局で対応していただける、という内容です。

被災している方々に是非ご案内下さい。

詳細はチラシをご覧ください

東京肝臓友の会

肝炎患者様へ

令和6年能登半島地震による被災に伴う肝炎ウイルスの治療薬や受診に関して

○「服薬として」お薬の服用は中止しないようお願いいたします。
 ○お手元にお薬がない場合は、原則、医師の処方箋が必要ですが、お近くの医療機関が被災等により受診できないときは、処方箋の提出ができなくても、薬局でお薬を購入できる場合があります。
 【受付可能かどうかは、お近くの薬局までお問い合わせください】

※服用できない期間があった場合は、その期間の分は服用しないでください。決して一度に複数回分をまとめて服用しないでください。

※特にB型肝炎に対する抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤）を服用中の患者さんは、お薬を中止すると、肝炎が悪化して重症化する危険性があります（一般には、1～2週間程度のみ中止では、服用を再開すれば肝炎が悪化する心配はないとされています）。

※C型肝炎に対する抗ウイルス薬を服用中の患者さんも、お薬を中止すると、治療効果が低下する可能性があります。できる限り、中止しないようにしてください。

○肝炎治療受給者証や、肝がん・重症肝硬変治療の受給者証の提出ができない場合でも受診できます。（後払いがされます）。

○受給者証に記載のない医療機関・薬局でも受診できます（後払いがされます）。

※医療機関において、受給者証又は参加者証の交付を受けている者であることを申し出た上で、氏名・生年月日等を確認し、被保険者証等を提出できない場合も同様に受診できます。

お問い合わせ先

石川県保健医療福祉部健康課 1F、2F、3F、4F、5F
 石川県立能登半島医療センター 1F（受付） 石川県立能登半島医療センター 1F、10F、20F、30F、40F、50F

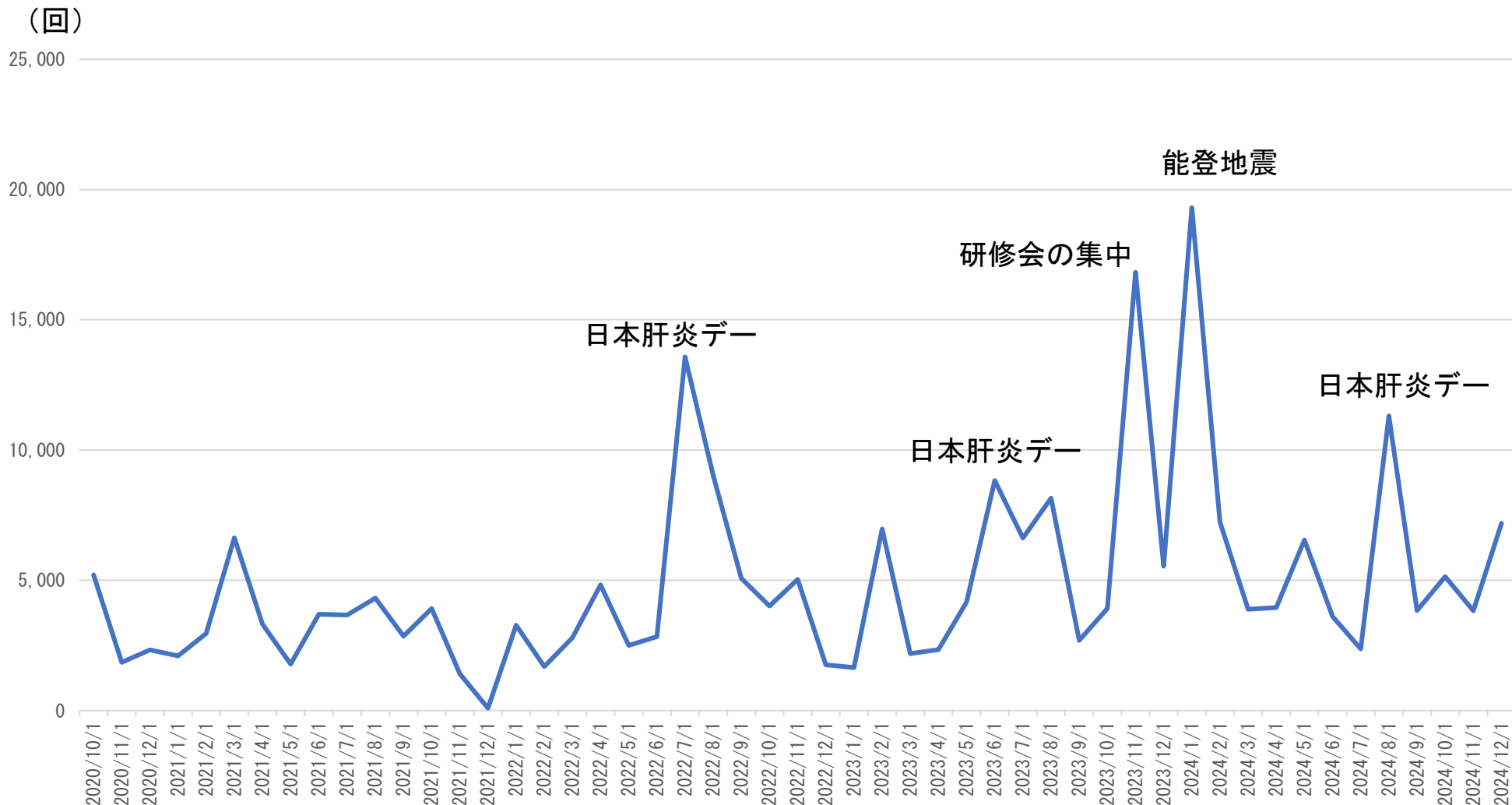
R6年1月1日 16時10分 能登半島地震 発災

1. 肝Co応援団にて1月1日地震発生当日に支援の情報提供を開始（18時57分）
2. 災害栄養士（JDA-DAT）より災害時の栄養について情報を発信（99/2056人）**クリック率4.8%**
3. 災害におけるクラウドファンディングについて（163/2053人）**クリック率 8%**
4. 患者会の協力のもと、被災者の核酸アナログ製剤、免疫抑制剤等の処方に関する情報を提供

※LINEの広告に関するクリック率は平均0.3～1.5。

LINEによる情報の発信数の推移

のべ送信回数 250,737 回 (2020年10月～2024年12月)



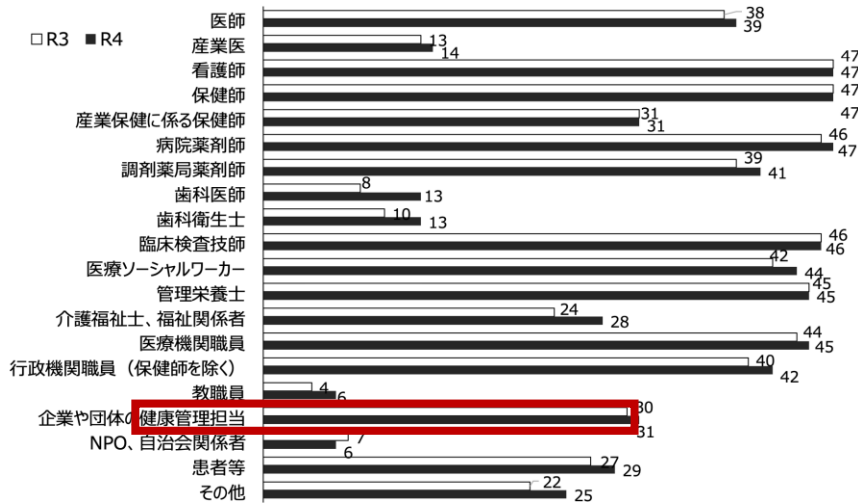
※2020年10月より2024年12月までの月ごとの配信数を表示
配信数は、一回の配信人数×配信回数 (例) 100人に配信＝配信数100

2-3) 肝Coの構成員として患者等は、令和4年度の調べでは29都道府県で養成され増加の一途を辿っており、活躍が期待されており活動推進についてのマニュアルやハンドブック等が求められる

参考

肝炎医療コーディネーターの職種（令和4年度）

○肝炎医療コーディネーターの養成者数増加により、全体的に数値が増加している。
特に、歯科医師及び介護福祉士、福祉関係者の肝炎医療コーディネーター養成が増加している。



「令和5年度肝炎対策に関する調査（調査対象令和4.4.1～令和5.3.31）」（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 肝炎対策推進室調べ）より 57

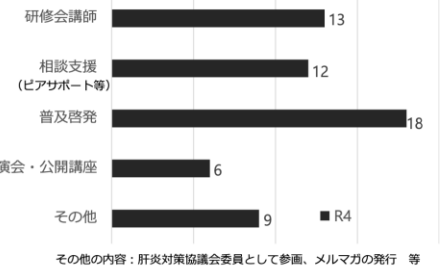
肝炎医療コーディネーターにおける肝炎患者等の参画状況

○28都道府県において、242名の肝炎患者等が肝炎医療コーディネーターとして養成されている。
肝炎患者等である肝炎医療コーディネーターの主な活動は、「普及啓発」が多い。

■肝炎患者等を肝炎医療コーディネーターとして養成している都道府県及びその人数（計242名）

岩手県	1	京都府	13
宮城県	1	大阪府	54
秋田県	6	兵庫県	52
茨城県	2	和歌山県	5
栃木県	9	鳥取県	4
群馬県	2	島根県	3
埼玉県	6	広島県	4
千葉県	14	徳島県	2
東京都	24	香川県	2
神奈川県	5	福岡県	2
長野県	7	佐賀県	7
静岡県	5	長崎県	1
愛知県	3	鹿児島県	5
滋賀県	1	沖縄県	2

■肝炎患者等である肝炎医療コーディネーターの主な活動



その他の内容：肝炎対策協議会委員として参画、メルマガの発行 等

【参考】肝炎医療コーディネーターの養成及び活動について（健発0425第4号平成29年4月25日厚生労働省健康局長通知 令和5年2月3日一部改正）抄

5. 肝炎医療コーディネーターの養成

(1) 対象者

○なお、肝炎患者等やその家族等が肝炎医療コーディネーターとなり、経験や思いに共感し、当事者の視点で支援にあたることも有意義と考えられる。

(2) 内容

○肝炎医療コーディネーターには、患者等の気持ちを理解し、それに共感する姿勢と技術が求められる。当事者の視点で支援にあたることも有意義であることから、患者やその家族等の話を直接聞く機会を設けることも積極的に検討されたい。あわせて、患者の権利擁護、偏見や差別の防止とともに、個人情報取り扱いについても理解する。

「令和5年度肝炎対策に関する調査（調査対象令和4.4.1～令和5.3.31）」（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 肝炎対策推進室調べ）より 58

「令和5年度肝炎対策に関する調査（調査対象令和4.4.1～令和5.3.31）」
（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 肝炎対策推進室調べ）より

2-3) 肝炎患者等（患者、家族、遺族等）の肝Coの活躍の推進のために患者部会を立ち上げ、患者講義の感想文をまとめた「肝炎患者から学生さんへ」を完成し、日本肝臓学会総会での展示、全国展開を開始。現在、患者らの肝Coの活動ハンドブックの制作を進めている



医学部、健康学部、薬学部など100名の学生の感想や学びを記載、28ページ

患者Coと医療者や医療機関が連携した事例

- 患者Coが医療機関における肝臓外来で通常の外来診療に併せて、肝臓ピア外来を行い、様々な問題を抱えた患者や家族に対して肝臓専門医がピア相談を提案し、相談者は診療通常の外来診療で医師に相談しにくい内容を相談し、日常生活や治療に関する不安の解消に貢献している。
- 患者Coが医療機関が行う啓発事業に参加し、実際に啓発ブースに立ち、啓発資材配布や肝炎ウイルス検査実施への声かけなど医療機関のスタッフらと啓発事業を行っている。
- 患者Coが自治体主催の肝Co養成研修会やスキルアップ研修会、市民公開講座で講師として登壇したり、パネルディスカッション等に参画している。
- 患者Coが医療者や医療機関が作成する啓発資材や情報提供において、患者目線でのブラッシュアップを請けている。
- 患者Coが肝臓専門医療機関へサーベイし、医療機関としての質の向上の推進へ助言を行っている。

令和6年度 第2回兵庫県肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会

※第1回兵庫県肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会(2024年10月26日下記内容で実施)と同一の動画を配信

お申込み受付期間:2025年2月7日(金)10:00~2025年3月14日(金)10:00まで
 オンデマンド配信期間:2025年2月7日(金)10:00~2025年3月17日(月)10:00まで
 アンケート回答(受講確認)締め切り日:2025年3月17日(月)10:00まで

9:30~9:35	開会あいさつ 兵庫県保健医療部疾病対策課 課長 河原 秀和	
演題1	肝炎友の会 兵庫支部の活動案内	
9:35~9:45	演者:肝炎友の会 兵庫支部 大狼 秀規	
演題2	肝炎拾い上げについて	
9:45~10:00	司会:兵庫医科大学 臨床検査技術部 部長 狩野 春穂 演者:兵庫医科大学 肝胆臓内科 高嶋 智之	
演題3	肝炎治療中・治療後に気をつけること	
10:00~10:20	司会:兵庫医科大学 消化器内科学 講師・超音波センター長 西村 貴士 演者:加古川中央市民病院 消化器内科 部長・神戸大学大学院医学研究科 消化器内科 客員教授 上田 佳秀	
演題4	肝炎医療コーディネーターの活動から得られた前進と課題	
10:20~10:35	司会:医療法人ロコモディカル総合研究所 副所長 矢田 ともみ 演者:姫路赤十字病院 薬剤師部長 兼治験・臨床研究管理副センター長 上野 聖子	
***** 休憩 15分 *****		
演題5	ピアサポートの現場から	
10:50~11:10	司会:兵庫医科大学 消化器内科学 特別招聘教授 飯島 尋子 演者:NPO法人 東京肝臓友の会 事務局長 米澤 敦子	
演題6	パネルディスカッション	
11:10~11:50	司会:医療法人ロコモディカル総合研究所 所長 江口 ゆういちろう NPO法人 東京肝臓友の会 事務局長 米澤 敦子 パネラー:上田佳秀、西村貴士、飯島尋子、高嶋智之、榎本平之、矢田 ともみ、狩野春穂、上野聖子、光永喜美代	
11:50~11:55	受講確認方法説明 兵庫県保健医療部疾病対策課 課長 河原 秀和	
11:55~12:00	閉会の辞 兵庫医科大学病院 肝疾患センター長 榎本 平之	

※講演内容等につきましては、一部変更になる可能性があります

お申し込みは以下の URL か、こちらの二次元コードよりお願いいたします

<https://forms.office.com/r/FGG7s8wDyT>

※お申込期間外は、「このフォームの回答は現在収集していません。」と表示されます。

お問い合わせ:兵庫医科大学病院 肝疾患診療連携拠点病院 事務局

Email:hyo-kanshikan@hyo-med.ac.jp

主催・共催:兵庫県肝疾患診療連携拠点病院

兵庫医科大学病院 肝疾患センター・神戸大学医学部附属病院 肝疾患相談センター

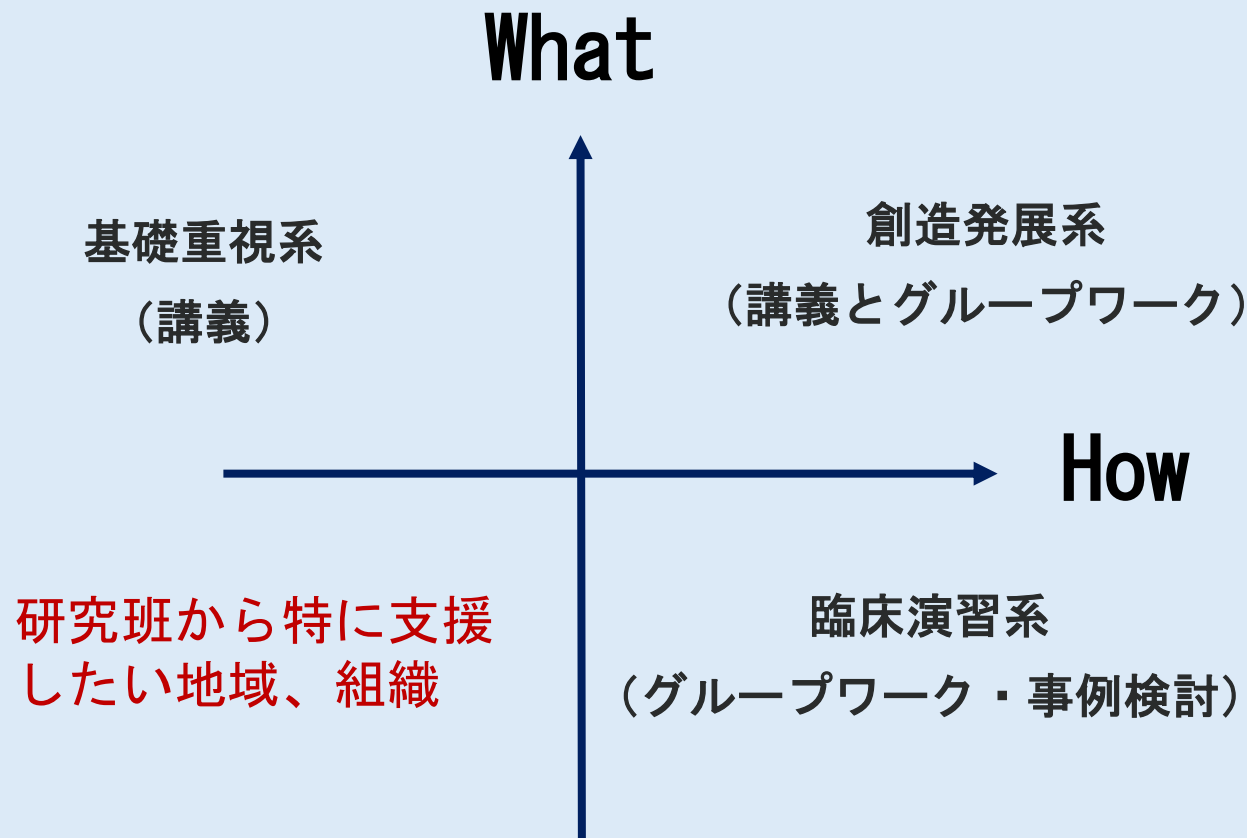
兵庫県保健医療部 疾病対策課 がん対策班



2-4) 肝Co主導型スキルアップ研修会サポートプログラム

「肝Coサポートプログラム」を開始し、都道府県で開催されるスキルアップ研修会の開催支援を開始した

肝炎医療Coの研修・スキルアップ研修の内容はマトリックスに区分できる



「肝Coサポートプログラム」の主要パッケージ

1. スキルアップ研修会を開催する各拠点病院からサポート依頼を受ける
2. 今後の自走化のため、あくまで主体は開催県の肝Coとし、サポートする肝Coは相談役となる
3. 地域が抱える課題や肝Coの活動状況を踏まえて研修テーマやゴール設定を行う

01 満足度と自信

参加者の参加目的が達成できる内容の検討

02 活動への展開

研修会終了後にすぐに実践に移せる具体的な活動内容の習得

03 研修に積極的に参加

参加者も企画者も研修に積極的に取り組み、習得度を向上させる

04 仲間づくり

顔の見える関係作りと連携の強化

- ✓ 実証実験として茨城、兵庫、徳島、福岡、奈良、北海道で実施した
- ✓ 本プログラムの実施の様子はポータルサイトで公開している（徳島県）
- ✓ 院内肝Coチームの立ち上げ等も支援を開始している

2. 肝Coの育成後の活動支援に対する研究班の取り組みのまとめと今後の方針

背景	肝Coの育成後の活躍に地域や個人に差異がある
課題	肝Co育成後における活躍の場を見出す機会として肝Co間の情報共有や連携しやすい環境の創出を進めなければならない
研究班の取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1) 肝Co情報ポータルサイトを知識や活動についてのこれまでのツールやコンテンツを活用しやすい形にリニューアルし、運用を開始した 2) SNSによるリアルタイムな情報共有や活動評価のためのツールとしてLINEを用いたシステムを構築し、運用を開始した 3) 患者肝Coによる学生講義の成果集を制作し、患者Co活動ハンドブックの制作を進めている 4) 経験豊富な全国の肝Coが地域のニーズにあったスキルアップ研修等のサポートシステムを開始した

- 肝Coの活躍の場を広げるためにポータルサイトやSNSの活用の推進を継続して情報共有や連携を推進する
- 意義や活動が注目されている患者肝Coの活動ハンドブックを完成させ、活動を支援する具体的な方策の検討を進める
- 肝Coの活動の均てん化のためのサポートシステムを確立させ、持続可能な仕組みの方策を検討する

研究班の成果の発信、提言について

- ✓ 全国肝疾患診療連携拠点病院協議会（令和6年7月） 発表
- ✓ 班員や研究協力者による全国学会での10演題発表
- ✓ 班員や研究協力者による全国学会の司会、特別発言
- ✓ 班員や研究協力者による各地の学会（地方会）での発表
- ✓ 国際シンポジウム 1演題発表
- ✓ 班員や研究協力者による論文（査読あり） 和文3本、英文5本
- ✓ 全国放送による研究班作成のツールに関する特集が放映された